

平成25年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(国土交通省25-29)

施策目標		29 道路交通の円滑化を推進する					担当部局名		道路局			作成責任者名		<small>・路政課 (課長 田尻 直人) ・都市局都市計画課 (課長 和田 信貴)</small>				
施策目標の概要及び達成すべき目標		渋滞対策をはじめとした交通の快適性・利便性向上を図ることで、道路交通の円滑化を推進する。					施策目標の評価結果		順調である		政策体系上の位置付け		8 都市・地域交通等の快適性、利便性の向上		政策評価実施予定時期		平成26年7月	
業績指標等		初期値		実績値					評価結果	目標値		業績指標等の選定理由、目標値(水準・目標年度)の設定の根拠等						
		目標値設定年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	目標年度		目標年度								
145 開かずの踏切等の踏切遮断による損失時間		約128万人・時/日	平成23年度	約131万人・時/日	約130万人・時/日	約129万人・時/日	約128万人・時/日	約124万人・時/日(暫定値)	A-2	約1割削減(約121万人・時/日)	平成28年度	社会資本整備重点計画(閣議決定)において、開かずの踏切等の踏切遮断による損失時間については、平成28年度までに121万人・時/日にするにとされている。						
146 都市計画道路(幹線道路)の整備率		59.1%	平成21年度	58.1%	59.1%	60.2%	集計中	集計中	A-2	63%	平成28年度	これまでの都市計画道路(幹線街路)の整備率の実態等を踏まえ目標値を設定。 第3次社会資本整備重点計画に位置付け						
達成手段(開始年度)		補正後予算額(執行額)		25年度当初予算額(百万円)		達成手段の概要					関連する業績指標等番号		達成手段の目標(25年度)(上段:アウトプット、下段:アウトカム)					
(1) 高速道路既存ストック有効活用に関する検討経費(平成24年度)		0295		-	145 (144)	150	高速道路の既存ストックを有効に活用する観点から、本施策は、今後の新たな高速道路料金等(交通量、旅行速度、渋滞量、観光等)について、データ整理・分析を行うものである。					-		使途が今後の新たな高速道路料金等についてデータ整理・分析を行うものであり、成果目標を定めて実施するという性質のものではない。				
(2) 踏切対策促進のための連続立体交差事業の効率的な推進方策検討調査		新25-37		-	-	26	連続立体交差事業の1事業あたりの事業費は、近年増加傾向にあり、事業の早期化へのコスト対策の重要性が高まっているため、詳細な事業費構造の分析からのコスト縮減方策の検討、コスト縮減方策のケーススタディ等を通じ、効率的な踏切対策の検討を行うものである。					-		使途が踏切利用者の安全な歩行者空間の確保を図るためのものであり、成果目標を定めて実施するという性質のものではない。				